

(別紙様式3)

令和2年3月31日

## 研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所	千葉市中央区問屋町1-35 千葉ポートサイドタワー11階
管理機関名	千葉市教育委員会
代表者名	磯野 和美

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

### 記

#### 1 事業の実施期間

令和元年5月30日（契約締結日）～令和2年3月31日

#### 2 指定校名・類型

学校名	千葉市立稲毛高等学校・附属中学校
学校長名	佐藤 啓之
類型	グローバル型

#### 3 研究開発名

2030年の持続可能な地域社会を創生するグローバル・リーダーの育成

#### 4 研究開発概要

探究活動『稲高生による千葉市創生プロジェクト（1年）』及び『SDGsリサーチプロジェクト（2・3年）』、国際交流、海外研修、英語ディベート授業、グローバル講演会、グローバル企業訪問等により、グローバルな視点を持った課題解決能力を身に付けさせ、持続可能な地域社会を創生する人材を育成する。

「総合的な探究の時間（各学年1単位）」において、『稲高生による千葉市創生プロジェクト（1年）』及び『SDGsリサーチプロジェクト（2・3年）』という探究活動を研究開発する。

探究活動を計画するにあたっては、スーパーグローバル大学（SGU）として採択された千葉大学の国際教養学部をはじめ、コンソーシアムを構成する各機関と連携して、実施内容を構



								表会 リハ ーサ ル・ 指 導 助 言	表会 ・指 導 助 言			
--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------------------------	--	--	--

(2) 実績の説明

○管理機関による事業の管理方法や地域において構築するコンソーシアムの構成

①コンソーシアムの構成団体

千葉市、千葉市教育委員会、千葉大学国際教養学部、神田外語大学、東京情報大学、敬愛大学、株式会社千葉経済開発公社、社会福祉法人千葉市社会福祉事業団、社会福祉法人千葉市社会福祉協議会、千葉市を美しくする会、SMBC日興証券株式会社

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年5月30日	コンソーシアムを組織
令和元年6月～12月	コンソーシアム各団体の訪問 ・本事業の説明、千葉市立稲毛高等学校・附属中学校の取組の説明、コンソーシアムとして支援の依頼
令和元年10月1日	グローバル企業訪問 ・敬愛大学の協力により、生徒等が成田国際空港株式会社を訪問
令和元年10月2日	グローバル企業訪問 ・東京情報大学の協力により、生徒等が株式会社ファーストリテイリングを訪問
令和元年11月5日	第1学年生徒 「総合的な探究の時間」 成果発表会 リハーサル指導・助言 ・神田外語大学アカデミックサクセスセンター長 長田 厚樹 ・神田外語大学国際コミュニケーション学科准教授 田島 慎朗 ・神田外語大学言語メディア教育センター准教授 石井 雅章 ・敬愛大学地域連携センター室長 藤森 孝幸
令和元年11月12日	第2学年生徒 「総合的な学習の時間」 成果発表会 事前指導・助言 ・千葉大学国際教養学部長 小澤 弘明
令和元年11月19日	第1学年生徒 「総合的な探究の時間」 成果発表会 (クラス発表) 指導・助言 ・東京情報大学総合情報学部助教 河野 義広 ・敬愛大学准教授 八木 直人 ・敬愛大学地域連携センター室長 藤森 孝幸

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神田外語大学アカデミックサクセスセンター長 長田 厚樹</li> <li>・神田外語大学国際コミュニケーション学科准教授 田島 慎朗</li> <li>・千葉大学国際教養学部准教授 小林 聡子</li> </ul>
令和元年12月2日	<p>第1学年生徒 「総合的な探究の時間」 成果発表会 (学年発表) 指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉市美浜区長 植草 栄司</li> <li>・株式会社千葉経済開発公社代表取締役 志村 隆</li> <li>・株式会社千葉経済開発公社専務取締役 丸山 進</li> <li>・東京情報大学総合情報学部助教 河野 義広</li> <li>・敬愛大学准教授 佐竹 恒彦</li> <li>・敬愛大学地域連携センター室長 藤森 孝幸</li> <li>・神田外語大学アカデミックサクセスセンター長 長田 厚樹</li> <li>・神田外語大学アカデミックサクセスセンター専任講 師 酒井 亮征</li> <li>・千葉大学国際教養学部助教 ガイタニディス ヤニ ス</li> </ul>
令和元年12月6日	<p>グローバル企業訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒等がSMB C日興証券株式会社を訪問</li> </ul>
令和元年12月21日	<p>第2学年生徒 「総合的な学習の時間」 成果発表会 (海外) 指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・敬愛大学准教授 佐藤 邦政</li> <li>・敬愛大学講師 三幣 真理</li> <li>・神田外語大学アカデミックサクセスセンター長 長田 厚樹</li> <li>・神田外語大学言語メディア教育センター准教授 石井 雅章</li> </ul> <p>第2学年生徒 「総合的な学習の時間」 成果発表会 (修 学旅行) 指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京情報大学総合情報学部教授 田邊 昭雄</li> <li>・東京情報大学総合情報学部准教授 原田 恵理子</li> <li>・東京情報大学総合情報学部准教授 藤田 修平</li> </ul>
令和2年2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社千葉経済開発公社の協力により、総合的な 学習の時間等で作成した生徒のポスター等を掲示</li> </ul>

○カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について

①カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

- ・指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて  
元 千葉県国際交流協会事務局長補佐 若井 たかみ 氏（都度依頼し謝礼支払い）
- ・活動日程・活動内容  
海外研修実施に当たり、生徒・教職員に対し講話を行う。

活動日程	活動内容
令和2年3月 (新型コロナウイルス感染症のため中止)	生徒・教職員等に対する講話の実施

②地域協働学習実施支援員について

- ・指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて  
敬愛大学地域連携センター室長 藤森 孝幸 氏（都度依頼）
- ・実施日程・実施内容

日程	内容
令和元年8月1日	敬愛大学において、学長・副学長等との協議設定 ・令和元年度事業における活動計画について協議
令和元年10月1日	グローバル企業訪問 ・成田国際空港株式会社への訪問に同行
令和元年11月5日	第1学年生徒 「総合的な探究の時間」 成果発表会リ ハーサル指導・助言
令和元年11月19日	第1学年生徒 「総合的な探究の時間」 成果発表会 (クラス発表) 指導・助言
令和元年12月2日	第1学年生徒 「総合的な探究の時間」 成果発表会 (学年発表) 指導・助言
随時	「総合的な探究の時間」「総合的な学習の時間」等における成果発表会、グローバル企業訪問等連絡・調整

○管理機関による主体的な取組について（コンソーシアムによる取組も含め記入すること）

- ・海外研修旅費等において、国費に上乗せした独自の支援等、学校教育における費用の支援や取組の支援
- ・外国人講師への財政的な支援
- ・総合的な探究の時間における生徒の発表への指導・助言（コンソーシアム）
- ・本事業指定終了後も千葉市のグローバル人材育成の拠点校として位置づけ、継続的な支援の実施

○高等学校と地域との協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

平成31年3月に敬愛大学との協定を締結した。

## 千葉市立稲毛高等学校と敬愛大学との連携教育に関する協定書

千葉市立稲毛高等学校（以下「高校」という。）と敬愛大学（以下「大学」という。）は、高校と大学の連携教育を実施することに合意し、協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この協定は、高校に在学する生徒が、大学教育への理解を深め、学ぶことへの意欲を高めることで、主体的な進路選択をすることに資するとともに、高校と大学双方の協働的な取組みにより、グローバルな視点を持って地域を支える人材を共に育成することを目的とする。

（協力事項）

第2条 高校と大学は、次の事項について協力する。

- (1) 出張講義、大学の授業科目の履修に関する連携
- (2) 地域課題の解決等の探究的な学習に関する連携
- (3) 海外からの留学生との交流・学習に関する連携
- (4) キャリア教育に関する連携
- (5) その他必要と認める連携

（期間）

第3条 本協定は、双方の署名により発効し、平成32年3月31日まで有効とする。ただし、有効期間満了の2カ月前までに高校と大学の双方に異論の無い場合は、さらに1年間延長するものとし、その後も同様とする。

（事故の免責）

第4条 通学途中及び学内における事故やその他の災害・事故については、大学の責任は問われない。

（その他）

第5条 本協定に定めるもののほか、連携協力の具体的事項およびその他必要な事項については、高校と大学が協議して別に定めるものとする。

本協定の締結を証するため、本書2通を作成し、両者の署名捺印のうえ各々1通を保有する。

平成31年3月4日

千葉市立稲毛高等学校

敬愛大学

校長 遠藤明男 ㊟

学長 三幣利夫 ㊟

○事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・事業の円滑な遂行のため校内体制の整備
- ・地域協働学習実施支援員による事業実施のための大学・企業等との調全体制の確立



- ・ 英語ディベート授業では、ネイティブ講師を活用し、少人数で指導した。  
また、部活動においては、千葉県高等学校英語ディベート大会第2位、関東ブロック大会第3位等、優秀な成績を収めた。
- ・ グローバル講演会として、8月に政府機関等のセキュリティ強化事業に取り組む企業より講師を招き、グローバル人材に求められる経験や技能について講演を実施した。また、令和2年3月にも大学から講師を招聘し実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症で臨時休校となったため、中止となった。
- ・ グローバル企業訪問として、コンソーシアムの協力のもと、成田国際空港株式会社、株式会社ファーストリテイリング、SMBC日興証券株式会社を訪問した。  
世界を舞台に活躍する企業を訪問し、普段訪問することができない学校での学習と自分の将来とを関連付けて考えることができた。
- ・ 高大連携協定に基づく大学授業の受講について、千葉大学、神田外語大学において、地域連携や国際理解に関する授業を受け、稲毛高等学校の卒業に必要な単位として認定された。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

- ・ 総合的な探究の時間において、コンソーシアムの協力のもと、地元である千葉市の地域の課題を発見し解決する探究活動「千葉市創生プロジェクト」を行った。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・ 各教科の授業で本事業の探究活動に資する内容を扱う。国語科では文章の作成について、社会科では探究活動について、外国語科では英語を使用した発表への作文指導、情報科では効果的な資料作成等を行った。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

- ・ 校内の探究委員会を中心に、教務部と各教科、国際交流部、各学年団が連携して事業を進める。定期的に進捗状況を確認し、円滑に事業を進めることができる体制をより明確にする。
- ・ 各教科の授業で本事業の探究活動に資する内容を扱った。（クロスカリキュラム等シラバスに記載）

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

- ・ 校内の探究委員会を中心とし、事業が円滑に進むよう調整した。また、「地域との協働ワーキンググループ」を発足した。
- ・ 総合的な探究の時間検討委員会を中心に、第1学年が主体となって探究活動を推進し、「千葉市創生プロジェクト」後はゼミ活動をスタートした。第2学年については、海外研修における探究活動を実施するため国際交流部と連携し推進した。
- ・ 教務部と各教科、国際交流部、各学年団が連携して事業を進める。



⑥カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

- ・ 探究活動やグローバル企業訪問等において、企業等との連携を随時図り、円滑に事業を進めた。

⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

- ・ 校内探究委員会において、定期的に進捗状況を確認するとともに、運営指導委員会やコンソーシアムからの指導・助言をいただいた。高校魅力化評価システム並びに学校評価等を活用し、事業を改善していく。

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

- ・ コンソーシアムの構築により、地域が求める人材像の共有化や実施プログラムの改善を行う。

⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

- ・ 運営指導委員会の構成員

千葉大学教育学部教授 藤川 大祐 氏

神田外語大学アカデミックサクセスセンター長 長田 厚樹 氏

放送大学教養学部教授 岩崎 久美子 氏

千葉市美浜区長 植草 栄司 氏

明治大学文学部特任教授 藤井 剛 氏

- ・ 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年7月31日（第1回）	第1回会合 ・ 運営指導委員会設置要綱審議 ・ 本事業の説明 ・ これまでの取組の説明及び指導・助言 ・ 今後の事業の取組の説明及び指導・助言
令和2年2月26日（第2回） （新型コロナウイルス感染症のため書面会議に変更）	第2回会合 ・ 本年度の取組の報告及び指導・助言 ・ 次年度の取組の説明 ・ 授業参観

○地域との協働による高等学校教育改革推進事業（千葉市立稲毛高等学校・附属中学校）  
令和元年度第1回運営指導委員会について

- 1 日時：令和元年7月31日（水）午後2時～午後4時30分
- 2 会場：千葉市立稲毛高等学校・附属中学校 会議室
- 3 委員長、副委員長の選出

運営指導委員会委員長に藤川大祐千葉大学教育学部教授、副委員長に長田厚樹神田外語大学アカデミックサクセスセンター長を選出した。

#### 4 協議・指導助言

- ・非常に面白い取組をしている。
- ・PC室が3部屋もあり、情報の時間や総合的な探究の時間等々においてICTをフル活用している。
- ・コンソーシアムは現段階では、資料にある企業や団体であるが、今後広げていきたいと考えている。
- ・千葉市内のみで課題解決していくのか、県・国・海外へと広げていく方向なのか。最終的にプレゼンテーションをするとあるが、全国の例を見ると、部課長や市民にプレゼンテーションをする等、様々な方法がある。
- ・現実社会の課題を踏まえた学習をすることが良いのではないか。社会の課題について真剣に考えさせ、その対応を生徒に提言させる学習方法がある。このような学習方法では、ブレインストーミングなどでアイデアを多く出しKJ法で集約するというアイデア創出の学習方法よりも、千葉市の課題を表現した写真などを見せて、生徒に自由に何が問題なのかを考えさせた上で、問題解決に向けた調査研究をさせ、千葉市に提言するといったやり方もあると思う。
- ・千葉市の問題として問いを立てる時に、今まで意識していない生徒に、より意識化させる仕組みづくりが大事である。
- ・千葉市で行っている子ども議会では、小学生の新鮮な目からの施策の提言がある。稲毛高校生徒の提案についても、フレッシュな目線からの提言は、とても貴重なものである。
- ・行政としては、所管の局・部に対して繋げるということも含めて、市という立場でもできる限り協力したい。
- ・市長と直接意見交換するということは、生徒にとって刺激になり、また、市長はそれを望んでいると思う。
- ・市や部局の行政側から、我が市はこういうところに問題を抱えているというようなテーマをいただくという方法も見てきた。次年度以降の課題かもしれないが、千葉市からテーマをいただくのもいいと思う。最終ゴールは市長に向けてだろうが、議員にプレゼンテーションする、そこからボトムアップ型で施策を実現することも考えられる。市の部課長に提案することも方法だと思う。活動したことが生徒の成果として見えてこない、生徒の有用感が出てこない。
- ・グローバル型での採択であり、ローカルの中で、グローバルな部分をどのようにして見つけていくかが課題である。全体で行う時に、今後どのようにグローバルという視点を取り組んでいこうと考えているのか。1年生は、とにかくローカルで、2・3年生でグローバルに発展させるということではどうか確認したい。
- ・生徒に深く探究する時間的な余裕があれば、生徒ももう少し考える時間ができると思う。
- ・教育委員会では、子ども議会を誇りを持って行っている。市長部局の関係の方と議論しながら提案を練り上げていく。最終的に議会議事堂でプレゼンテーションし、その

内容について、市長や関係の方から回答をいただいている。千葉市立高等学校で学ぶ高校生が、どれくらいの水準で議論してくれるかということでは、小学生・中学生の上をいってほしいと期待している。今すぐということではないが、小学生・中学生を超える高校生らしい、大人の立案、政策立案や政策提言をしてほしい。一方で、企業の参画がまだまだ少ないという課題があるとしても、本来経済的な部分、民間で地域の経済を盛り上げていくという課題があるはずである。政治だけではなく経済的な動きも選択肢としてあるということを知っていただけるといいと思う。

- 大学生はなかなか動けないだろうから、社会人の方、企業の方の協力がもっとほしいと思う。コンソーシアムにいくつもの企業が入って、企業の方に来ていただき、アドバイスをしていただく。企業の方であれば、プレゼンテーションや市への提言、経済的な取組で、様々な経験があるので、御指導いただくとよい。市長部局の職員にも来ていただく。こうしたことは、高校生にとっていい経験になるだろう。社会人の方をアドバイザー的に協力いただく形も考えてもらえないか。より良いものにしていただきたい。千葉市創生といっているので、千葉市創生という名前が生きるようなプロジェクトにしていきたい。
- 教員ではない方に教えてもらうことは、非常に良いことで、是非実現してほしい。
- カリキュラムの開発が一番の課題であると思うが、単年度契約であり、採択された年度中に成果を出さなければならないことがある。
- 教育の一環であるということを考えていただければありがたい。部局の方が高等学校で説明すればよいと思われるかもしれないが、高校生が足を運びインタビューする過程も大切ということを知っていただくと、学校としてはありがたい。
- 一つの方向性として、千葉市のPRを海外向けに行うという課題を担う部分があるといい。大人にはできないPRで高校生世代だからできることがあると思う。「千葉市を海外の方に伝えてほしい、皆さんは留学したりするから、そういう場でPR大使みたいな形で千葉市を紹介・宣伝してきてほしい」というようなことを市長から高校生に伝えてもらい、その準備をすれば高校生らしいものができると思う。グローバルであるので、グローバルに繋げないといけない。「千葉市から世界に」ということを、ある程度生徒に担っていただくということを検討していただきたい。
- 稲毛高等学校の設置者は市なので、県立高校と異なる特徴づけをすべきであり、教育の一環として市長と学校や生徒との対話の機会を持つことも一考であろう。海外に向けての発信では、プロボノといった専門技能に基づくボランティアによるホームページ整備をIT企業のCSR担当者に働きかけることもよいのではないか。グローバルの点からは生徒が調査研究をする場合、アメリカ・カナダ・オーストラリアのカウンターパートの学校からデータ収集に協力してもらえるような教育・学習ネットワークが成立していると、比較調査・研究につながり、生徒の国際的視野が広がると思われる。
- 本校卒業生の大学卒業後を追跡し、起業しているOBと生徒と一緒に話をすること等、おもしろい取組ができるといい。将来なりたい職業や、海外に出て行くことに繋がる。8月に市から姉妹都市のバンクーバーに行くが、姉妹都市へのPR活動におもしろいものが期待できる。取組を検討材料にするとよい。この事業は、広がり・ふくらみを視野に入れることもおもしろい。
- 数値目標を共有し、どのようにつないでいくかをきちんと詰めたほうがよい。緻密に

していく必要がある。具体的な取組が成果に結びつくようにしなければいけない。

- ・新規事業であり、事業を進めながらになると思うが、年度毎に目標を決めておくことが必要である。

○地域との協働による高等学校教育改革推進事業（千葉市立稲毛高等学校・附属中学校）  
令和元年度第2回運営指導委員会について

※第2回運営指導委員会は、新型コロナウイルス感染症のため、書面による会議において、指導・助言をいただいた。

1 令和元年度の取組について

- ・多くの方々と関係を築き、精力的に取り組みを進められたこと、素晴らしいと存じます。関係の皆様に感謝申し上げます。

他方、学習の方法についてはまだ工夫の余地があると考えます。生徒が千葉市に政策提言をするということは貴重なことですが、実際には一度提言をして終わりでは生徒へのフィードバックが不十分となるはずで、本来、中間的に提言を行った上で、千葉市側からのフィードバックを得て、どのようにすれば実現可能な政策が提言できるのかをあらためて検討して再度提言するということが必要ですし、できれば千葉市側との間で何往復も議論を行うことがあってよいはずで

す。真正性のある課題に向けたプロジェクト学習として、探究の学習を進めていくことが目指される必要があると考えます。

- ・取り組み初年度については、概ね当初の計画通りに諸活動が実施されたと判断できる。

第一学年の「総合的な探求の時間」を使った活動については、折々で活動を拝見し助言を行った。限られた時間の中ではあるので、多少物足りなさを感じる部分も散見されたが、自らが課題を探し、調査し他のクラスの生徒とともに話し合いながら解決策を模索し提案するといったプロセスを経験できたことは、今後の2、3年次における活動の基礎となると思われる。又、上級生の海外研修についても単なる語学研修に止まらず、課題を設定したうえで日本と現地との意識の違いなどについて調査し、プレゼンテーションを行えたことは意味があったと思う。

- ・取組の実績を拝見し、意見を申し上げます。

地域の大学や企業との連携組織（コンソーシアム）を立ち上げ活動したことを評価いたします。このような連携組織との関係を密にすることで、実際の社会の動向把握や教育資源導入が一層進み、教育内容がより充実すると思われ

ます。企業に関し、現段階では訪問や指導助言にとどまっていますが、さらなる協力を得られるようであれば、インターンシップのような形態で生徒がより深く企業に関わり、課題解決学習につながる学習活動に発展することが期待されると思います。企業のCSR活動としての支援をいただくのも一考かもしれません。

- ・①生徒の活動状況も拝見したかったので、次年度からは主要な事業（例えば、第1・2学年の『成果発表会』など）に私たちも参加できるようにしていただければと思います。

②年度途中からの取組開始なので日程的にも厳しかったと思いますが、今年度の実践で生徒がどのように変容したか（例えば、「千葉市の社会課題を認識するようになった」「課題解決のためにボランティアを行なった」「海外のフィールドワークで千葉市と海外との比較を行ない、グローバルな視点で解決方法を考えられるようになった」「グローバル企業を訪問して、進路意識が変化した」など）を、アンケート調査などにより検証していただければと思います。

③第1・2学年の「成果発表会」のポスターセッションで使用した「ポスター」などを拝見すると、私たちも発表会をイメージしやすかったと思います。さらに次年度以降は発表会の様子をビデオに撮って紹介したりしていただければと思います。また、少なくとも、「成果発表会」のテーマ一覧を拝見したかったです。

④ポスターセッションやプレゼンテーションの準備や発表方法は、例えば大学生の事例等を見させると参考になるのではないのでしょうか？

- ・ 年度当初から事業に着手し、年間を通じて多岐にわたる活動を展開している。

まずは、ローカルな視点から、美浜区内の課題を洗い出し、生徒自らが考え、解決に結びつけるための討議等を繰り返す中で解決の方策を見出すといった一連の流れを習得するプロセスは、区行政を預かる我々として同じことであり、早くからそうした手法を身に着けることは、やがてはグローバルな視点にも繋がるものと期待している。

また、暮れには、生徒がグループごとにプレゼンを行い、上位のグループは市長の前で発表するなど、生徒同士の活動も活発に行われたものと高く評価する。

## 2 令和2年度取組について

- ・ 国際交流や海外研修はそれ自体大変価値の高いことであり、英語ディベート等の取り組みと関連づけたカリキュラムで実施していただきたいと存じます。ただし、当面は新型コロナウイルスの影響があり、おそらく対面での国際交流や実際の海外研修は実施困難となる可能性が高いことから、早急にインターネットを活用した形の学習のあり方を検討し、単なる代替手段でなくインターネット社会の特性をふまえた新しい活用の方法を検討していただく必要があると考えます。
- ・ 令和2年度の実施計画については、新型コロナウイルスのパンデミック状況を鑑みた場合大学においても交換留学等、海外派遣、受け入れ双方において中止、および延期が決定されている現状があり、高等学校においても大幅な計画の見直しが必要になる可能性が高いと言わざるを得ない。本事業の特徴の一つでもあるSDGsについては必ずしも生徒の理解が十分であるとは言えないので、学内で有識者を招く、提携大学と連携し先進的にSDGs取り組んでいる学生との交流を図るなどの取り組みを行い生徒のSDGsに対する理解を深める機関としてもよいのではなかろうか。
- ・ 生徒自身でプロジェクトをたて主体的学習や取組が行われる教育環境整備や個別支援（ファシリテート）が一層必要と思われます。プロジェクトに関わる資料や情報の点では、図書館活用や海外の学校との交流を通じた資料・データ取得は有益なことであり、これらを通じ、生徒の企画力、情報取得・活用能力を育成することは、グローバル・リーダー育成の目的に沿ったものでしょう。

高大連携に基づく大学の講義受講による単位認定は、先駆的であり高く評価され

るべき取組みであり、その成果を広く広報されるとよいと思います。

- ・ ①大前提として「コロナ対策」が必要になると思います。全体の日程調整をうまくしていく必要があると思います。

②細かいことですが、8人グループは大きすぎませんか？フリーライダーが出ないか心配です。

③「課題発見」「フィールドワークの進め方」「プレゼン技術」など、さらに基礎的なスキルを身に付けるようご指導下さい。社会や大学に必要なスキルです。

④海外研修組は、さらに現地の高校生などに「地域課題解決」のプレゼン等を行ない、特に日本人が弱いとされている「質疑応答」の力を向上して欲しいと思います。

⑤「1 令和元年度の取組」でも書きましたが、生徒の変容の検証と私たちの主要な行事への参加をご検討下さい。

- ・ 初年度の活動内容を今一度検証し、2年生の活動につなげていただくことを期待する。

本事業の取組みについては、引き続き、運営委員会メンバーの一員として参画させていただきたい。

### 3 本事業の全体について

- ・ 1年生の「千葉市創生プロジェクト」と2年生以降のグローバル対応との間に距離があるように感じられます。これらをどのように有機的に接続できるか、ぜひご検討をお願いいたします。
- ・ グローバルな視点を持ってサステナブルな地域社会創生に寄与する人材育成という時代に即したテーマを掲げての計画である。本事業の実施計画中に世界的な感染症拡大という予期せぬ事態に直面しているが、生徒が身近な物事を世界規模で考える機会にもなるので、当社計画にとらわれず成果を出すことに期待したい。
- ・ SDGs は現代的テーマで良いと思いますが、普遍的なテーマであるために千葉市立という稲毛高等学校・附属中学校の特徴が見えないものとなります。そのため、1年次に行われる千葉市創成プロジェクトと2・3年次のSDGs リサーチプロジェクトとの連続性を強調されることと、「千葉市立」「中高一貫校」といった貴学の特徴を前面に出し、特徴ある教育実践のストーリーが計画書に見られると魅力的な取組みとして認識されると思います。
- ・ 年度途中からの取組開始でしたが、意欲的に取り組まれていると思います。次年度以降の研究を期待しています。
- ・ 本事業が、文科省のモデル事業後も継続し、本校の主要なプログラムとなることを期待する。

### ⑩類型毎の趣旨に応じた取組について

- ・ 千葉市における探究活動を実施するとともに、海外研修においてフィールドワーク等をおして探究活動を行い、グローバルな視点を持つことができるようにしている。
- また、ネイティブ講師を活用し、ディベートや先進的な外国語教育を実施している。

### ⑪成果の普及方法・実績について

- ・千葉市の広報紙に事業の取組について掲載し、千葉市民へ周知した。
- ・千葉市長への提言等を行い、探究活動の成果を市長部局に還元した。報道機関の取材を受け、新聞等に掲載された。
- ・研修会で成果発表したり、報告書等を作成したりし、関係機関に配付する。
- ・千葉市教育委員会のWebページを作成し、成果物を記載した。

## 8 目標の進捗状況、成果、評価

探究活動による成果物として、成果発表会におけるパワーポイント等を作成した。校内と外部地域施設で展示を行った。

成果発表会について、第1学年生徒が、学級単位・学年単位で生徒や教職員等に発表し、その内容等について、大学等コンソーシアムから学校や生徒に対し、指導・助言をいただいた。その中で優秀グループについては、千葉市長に成果を提言した。生徒は、探究活動の手法を学ぶこと、思考力・表現力を培うことができた。

校内探究委員会及びワーキンググループの会議を計8回行った。次年度は、組織体制を見直し更に充実させたい。

G P S -アカデミックにおける結果は、対象の第1学年でスコアがA段階以上の生徒は、「批判的思考力」38.6%（前年度38.1%）、「協働的思考力」33.8%（前年度18.2%）、創造的思考力49.4%（前年度58.2%）で、前年度の学年と比較すると、「協働的思考力」が有意に高くなった。次年度1年間の伸びを検証したい。

### <添付資料>目標設定シート

## 9 次年度以降の課題及び改善点

- ・コンソーシアムに協力いただける大学や企業を増やしていくとともに、目標を共有し、協力体制を整える。コンソーシアムを構成する機関の代表者から指導・助言をいただくとともに、コンソーシアムを構成する機関の担当者等と連絡協議会を開催し、地域の在り方や地域が求める人材について共有し、指導体制を構築する。
- ・事業の円滑な実施のため、校内体制を見直し、更に明確にする必要がある。（地域との協働ワーキンググループから地域との協働委員会へ）
- ・本事業の目標である考え抜く力（課題発見力・計画力・創造力）、協働する力（柔軟性・傾聴力・状況把握力）、行動する力（主体性・実行力・働きかける力）の育成に向け、円滑な事業の遂行に努める。
- ・海外交流アドバイザーの業務について、海外研修に関する企画立案等、学校と連携し協力体制を構築する。
- ・事業ごとの評価方法を検討していく必要がある。

### 【担当者】

担当課	学校教育部教育指導課	TEL	043-245-5914
-----	------------	-----	--------------

氏名	臼井 武彦	FAX	043-245-5989
職名	指導主事	e-mail	takehiko8722@city.chiba.lg.jp